

こちら特報部



遠州弁で何でもやってみようを、必要だ」と感じ、六十一歳のとき、巖さんと同居するためのマンションを建てた。その願いがかなったのは二十年後だ。

三年の時に事件に興味が持て、以来、支援に関わる東京都柏江市の高校一年畑山智哉さん(五)は「漫画を読み、改めて秀子さん

福島県の甲状腺調査

コロナ禍で一部休止

新型コロナウイルスの影響は東京電力福島第一原発事故の被災地にも及んだ。福島県が行う甲状腺がんの検査も学校を会場とする分が当面休止となった。ここで懸念されるのが、なし崩し的に検査が縮小されないかという点だ。検査を巡っては「不安を与えるだけ」と不利益を強調する声があり、それを追認する国際機関もある。しかし今考えるべきは新たな災禍がある中でも「人災」の被災者をどう支え続けるかという点ではないか。(榊原崇仁)

「悪さしないがん発見 不安に」
「拒否しにくく強制力持つ」



「あじさいの会」の千葉親子事務局長(左)と福島県会津坂下町はそう語る。千葉さんが言う「検査」は県が県民健康調査の一環として行う甲状腺がんの検査のことだ。事故当時十八歳以下の県民約四十万人が対象で、二〇一一年十月に始まった。子どもたちは最初の三年間で一度受け、以後は二年おきに受診する。

この検査のうち、県内の小中高校を巡回して行う分は「学校検査」と呼ばれ、それぞれの学校に通う児童生徒が受診できる。市町村側から「受診しやすい環境の整備を」と要望があったため、授業時間を使って実施している。しかし新型コロナと無縁ではいられず、三月からは休止に。再開は九月以降になるといわれる。

同県の県民健康調査課の二階堂一広主任は「各校が臨時休校となり、検査会場として使えなくなったため

甲状腺がんの検査会場に向かう子どもたち=2011年10月、福島市内で

なし崩しの縮小懸念

検査 受付

に休止した」と説明する。福島県も対象となった新型コロナ特措法に基づく緊急事態宣言は十四日に解除されたが「今後の状況は読みにくい。一学期は見送り、夏休みを挟んで二学期以降に再開することにした」。

身近な学校で実施する検査が休止となると、その影響は大きい。今回の休止の対象者は二十市町村の二万一千人に上る。その一方で、検査自体は県立医科大学が協定を結ぶ約二百カ所の医療機関や各地の公共施設などでも行っており、それらでも受診できる。

ただ県によると、医療機関の中には新型コロナの影響で検査を休止にするケースがある。これまでどれたけの医療機関が休止になったか、県医大に尋ねたが、広報担当の戸井田淳氏はメールで「休止中の医療機関についてはホームページでお知らせしております」と答えるのみで、具体的な数や掲載ページは示してもらえなかった。

休止が相次ぐ中、前出の千葉さんは「なし崩し的に甲状腺がんの検査がとりやめにならないか。検査の縮小を訴えてきた人もいるから。特に学校検査はターゲットにされてきた」と懸念する。

検査結果について議論する県民健康調査検討委員会や専門部会では再三、検査の縮小を求める声が上がってきた。「甲状腺がんはおとなしく、死ぬまで悪さをしない」という前提に基づき、「見つけなくてもよいがん」を検査で見つけた結果、子どもたちに不安を与えたり、やらなくていい手術で合併症に悩まされたりしてしまつて展開する。

急先鋒は昨年七月まで検討委と部会に名を連ねた大阪大の高野徹講師(甲状腺学)。ターゲットにしたのが、多くの子どもが受診する学校検査だった。同氏は「検査を受けない子どもは教室にばつんと残される」「検査拒否の意思を示しにくい強制力を持つ」とやめた方がいい」と主張。不利益が大きい検査を強制しかねない学校検査は特に不要、と言いたいらしい。

「アリスの追跡」

支援
をもう一度書きたくては、漫画はA5判、千三百六十四円(税別)。全国の書店で扱っている。

美 Good Good アップ

サツとひと塗り 白肌マジック!!

おしろい感覚のつけ心地。

ラモナーポータ 80

こちら特報部

報告書

縮小論者が重きを置くく文書がある。世界保健機関（WHO）の専門機関「国際がん研究機関」（IARC）が一八年九月に公表した報告書だ。昨年二月の部会では大阪の祖父江友孝教授（疫学）が報告書に触れた上で「検査の不利益が利益を上回る」と判断している」と強調し、国立がん研究センターの津金昌一郎氏も同年四月の検討会で「IARCの報告書は国際的な第三者が評価した意味で非常に大きい」と訴えた。

実際に報告書を見ると「被ばくの程度を問わず、積極的に希望者を募って検査することは勧めない」とある。検査をしても悪さをしない腫瘍を多く見つける可能性が高く、早期発見による死亡率の低下を見込みにくいほか、心理的な負担や手術による合併症などの問題が生じると指摘する。

しかし、これをこのみにするとはできない。検査は不利益ばかりではない。検討委では「早期発見すれば甲状腺の半摘で済む」「甲状腺がんでも転移や再発がある」「放っておくと気管への出血で窒息死が起り得る」と指摘され

国の援助で作成「擁護だ」

ている。民間団体の招きを受け、県内外で甲状腺がんの検査を続けてきた「さがみ生協病院」（相模原市）の牛山元美医師（68）も「子どもが成長が速いため、早期発見のメリットは確実にある」と述べ、さらに「検査しなければ事故後に何が起きているか分からない。放射線の影響も分析できなくなる」と被災地でも実施する意義を強調する。

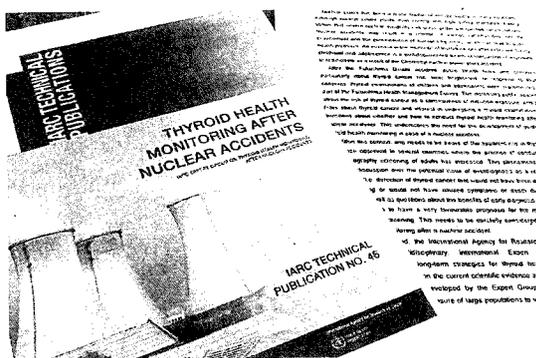
IARCも検査の利益を全否定していないが、論議展開がどうもおかしい。報告書では、被ばくによつてがんが発症するリスクを認め、そのリスクが高い人は早期発見のため、検査を受けられるよう提言して

いる。ただ「リスクが高い人」は「100〜500」以上の甲状腺被ばくを受けた子ども」とし「福島では早期の避難指示で住民の被ばくは大幅に低減された」「線量は低い」と記す。暗に「福島でリスクが高い人がいない」「検査は不要」と訴えているのだ。

慶応大の浜岡豊教授（67）（用統計学）は「リスクが高い」といつのを「100」で線引きした理由が分からない。根拠が示されていない」と指摘し「福島の人たちは線量が低いと言えるのか。政府が甲状腺被ばくを測つたのは千八百人だけ。少なすぎる」と続ける。

そもそも報告書の作成は環境省が資金援助した。関連費用を含めて三十六万（約四千万円）に上る。日本政府は事故後に適切に避難指示を出さずに被ばくを強いて、甲状腺がんをもたらし責任を問われかねない立場にある。そこから出たカネを原資にした報告書は「日本政府を擁護しているだけ」（浜岡氏）。

今必要なのは縮小の議論ではない。先の牛山氏は「コロナの問題がある中、どのようにして受診機会を提供するか考える必要がある。いつまでも先送りではいけない。検査自体は、どこに検査器を当てただけ、



①甲状腺がん検査に関するIARCの報告書 ②検査について語るIARCのヨアキム・シュッツ環境・放射線部門長 2019年3月、東京都千代田区で

有用性指摘あるのに「不利益」

放射線被害は人災 長期支援が必要

「スクは低い」と語る。コロナ禍で浮き彫りになった課題は他にもある。検査後の対応だ。

甲状腺がんと診断された子どもの療養費を支援するNPO法人「3・11甲状腺がん子ども基金」（東京都）によると、がんの手術を受ける前後、家族の見舞いが制限されたり、術後の定期検査が先送りになったりしたケースがあった。

新たな災害が起きれば今回と同様の事態が起きかねないが、吉田由布子専務理事（68）は「訴える。一放射線の影響は長期的に見る必要がある。人によっては何年もたつてから、がんになることもある。県民健康調査も「少なくとも三十年は継続」が前提だった。医療費や補償の問題も残る中、被災した人々を長く支援するためにどうすべきか、改めて考えるべきだ」

メッセージ

国は、国民に受診を推奨する「がん検診」に甲状腺がんを含めていない。がんの進行が遅く、不必要な手術を招く可能性があるなど、検診の利益より不利益の方が多からうという。ただ、原発事故という未曾有の放射能拡散を受けた福島県でも、同じ論法を用いてよいのかどうか。（歩）

2020.5.24

東

東直子

ウエットティッシュをくだけの人に守られ今がある。

（評）「人」には、瘰癧ら逃れる術を与えてくも含むのだらう。コロナ薄高騰中のウエットテからの戒めという妙味

雨あがりの雫をたもつ防砂いほつから波音は来る

静岡県沼津市 長

（評）景色を繊細に描かな情感と希望を感じ雨の名残である木々の音とともにある海の気それの光が美しい。

夕陽がモッコリ薔薇を撫でが体熱36度ありがとつ

千葉県柏市 萩

過去のしっぽ未来の迷路耐時計はつねに背後にて響る

東京都足立区 涌

石田郷子